

東京産学交流会

概要

1993年(平5)9月28日設立 会員数 18社
事務局所在地 = 東京都大田区蒲田5の46の1、秋元ビル
(日刊工業新聞社南東京支局内)
電話 = 03・3732・5451



渡辺 佳英氏
(大崎電気工業会長)

「環境」テーマに活動強化

「サザンクロス」は1993年の結成です。東京・城南地域の中堅・中小企業と芝浦工業大学、東京都市大学、東京都立産業技術高等専門学校で組織し、会員数は18社です。「第二の創業」をコンセプトに産学交流活動を進め、城南地域の発展に寄与することを目指しています。

「環境」をテーマにした産学交流活動を活性化させたいと考えています。環境は現在、いちばんホットなテーマですが、省エネ、省資源、削減など内容は多岐にわたります。収益に直接結びつかない場合も多いので、大学の先生との交流を通じて、普段の業務から離れた視点を見たいと思っています。

「サザンクロス」は企業と大学とのマッチングの道筋をある程度作ってきたと思っています。他の産学交流団体でも聞く話ですが、企業と大学はそもそも目指す方向性が違うため、マッチングには時間がかかります。企業と大学とがそれぞれのニーズをじっくり掘り出し、足らない部分を補つのが産学連携の理想。「環境」のような大きなテーマでは、企業は日常の経済活動に即したミクロな視点は持っていない。マクロな方向性を見定めるのは苦手です。現在のように変化が激しい時代には、大学の先生にマク

とされています。30社が適当ではないでしょうか。特に、江東区の中小企業に参入してほしい。芝浦工業大学の豊洲キャンパスがある江東区には、所属企業が少ないが、産学交流の機会が少ないのが残念。今年は江東区を強化したいものです。

現在の日本経済の動向をどう見ているか。『バブル崩壊以降の『失われた20年』の混迷は、70

年代のイギリスに似ています。サッチャー政権が登場する前、『英国病』と呼ばれた時代、イギリスは福祉が肥大化し、経済を圧迫しました。突破口はどこにあるとお考えですか。

「分野を横断する起業家精神」と思います。チャレンジャー精神を持ち、新分野を切り開く若い人たちに期待したい。近年、留学生が減少していることは非常に憂慮しています。国の予算を見ても、中小企業支援は7割ほどが資金繰り支援で、ベンチャー支援の予算はほとんどありません。TPP(環太平洋連携協定)で話題になった農業も含め、規制緩和を進める必要があります。

会長インタビュー

プロ招き実践研究

「素材に価値を! 高級感セミナー」

定例会抄録

東京産学交流会(サザンクロス、渡辺佳英会長)は大崎電気工業会長は、今年2月、企業のデザイン担当者を対象に定例会「素材に価値を! 高級感セミナー」(日刊工業新聞社、加飾技術研究会共催、東京都品川区の中小企業センターで開いた。大量生産、大量消費の時代が終わりを告げる中、高級感を切り口にしたモノづくりやデザイン開発が活発になっている。そこで企業や大学から加飾のプロフェッショナルを招き、製品開発へ応用できる実践的な手法を紹介した。非会員も含め60人が参加。活発な質疑応答が行われた。当日の様子を抄録で掲載する。

基調講演

「素材に価値を」



加飾技術研究会代表理事・平野 輝美氏

最近部品がモジュール化されているため、端末メーカーは基本的な機能で勝負するのが難しくなっている。大きな価値は、ブランド、外觀、デコレーション、加飾など、機能以外のところで付加していくしかない。米アップルの製品は、利益率が非常に高いが、利益率が低く、利益率が高いのは、機能以外のところ

るで差別化し、稼働しているから。機能は一次品質、加飾により高級感を出すのは二次品質といえる。加飾には塗装、メッキ、着色、表面処理、防汚処理、撥色に用いられる塗料には、一般に色材として有機顔料や無機顔料などの化合物が含まれる。しかし有機顔料は耐光性が高いものの耐久性に劣り、無機顔料は耐久性に優れるものの耐光性は低い。金や銀などの金属ナノ粒子は、その粒径や形状に応じた色を物理的に発色し、高彩度と高耐久性を両立できる。顔料のような着色剤

東海大学工学部教授 前田 秀一氏



金属ナノ粒子加飾 — 銀ナノ粒子薄膜の色を変える新規な方法 —

水処理、ハードコートなどいろいろな技術があるが、消費にはあまり関心のないことだ。これまでメーカーはコストやプロセス、製造しやすさの視点に寄りすぎていたように思う。消費者の視点に立つと選択の幅が広がる。そうしないと市場の動きについていけないだろう。

を添加しなくても、さまざまな色を得られるため、金属ナノ粒子の大きさと形状に関する研究が積極的に進められている。従来の研究では、銀ナノ粒子を物理的に発色させるため、10ナノメートルは10億分の1のコロイド状銀ナノ粒子に可視光を照射することにより、数ナノメートルのプリズム状粒子まで凝集させ、青色まで発色させている。しかし照射に70時間かかることが、産業化を進める上でハードルになっていた。

ピクチャー塗装



トコ代表取締役 斗光 健一氏

水圧転写



取締役技術部長 阿部 雅俊氏

ピクチャー塗装とは、写真や絵を塗料により表現する技術である。インクジェットプリンターと同じ要領で、写真や絵などのデータを読み込み、塗料を吐出し、1液型のウレタン塗料を使用する。特徴は、ガン吹き塗装と同じように、立面に対し垂直に印刷のよう塗装を行うため、冷蔵庫やマネキンなどの立体物にオジシタルな図柄を表現できること。木製ドアやアルミ鏡板、波板など、多少の凹凸があるものにも塗装が可能

ミズノリベアショップ 取締役技術部長 阿部 雅俊氏

水圧転写とは絵柄フィルムを浮かべた水面に、成型品を押しつけ、水圧が均一にかかることを利用し、成型品に絵柄を張り付ける技術という。従来は大規模な生産設備を必要としたが、弊社は少量生産に対応できる簡易型の水圧転写システムを構築し、製造に必要な資材や消耗品とともに「Top Art System」として展開している。

指定された環境の下で正しい手順に従えば、誰でも処理が可能で、職人芸を必要としない。樹脂、金属、ガラスなど多くの素材の3次元曲面に、多色柄をコーティングできる。実施例には、自動車の内装部品や携帯端末カバー、ドアノブ、楽器などがある。

東京産学交流会入会のご案内

◇ご案内◇

ビジネスチャンスの拡大と企業技術のレベルUPに産業人クラブへの入会をお勧めします!!

東京産学交流会(通称:サザンクロス)は、城南地域の中堅・中小企業18社と、芝浦工業大学、東京都市大学、東京都立産業技術高等専門学校で組織された産学交流組織で、会長を渡辺佳英大崎電気工業会長が務めています。

93年にSIT産学交流組織として発足。「第二の創業」をコンセプトに、城南地域の産業を盛り上げるため、産学交流に着目した活動を続けています。

月に1回、ビジネスチャンス拡大のために、講演会や工場見学会などの定例会を実施しています。異業種、異分野同士で交流を進め、モノづくりへの理解を深めていきます。

産学交流を推進して会員企業の技術レベルを上げ、地域産業の発展に寄与する事を目指しています。

◇入会の手続き◇

経営者の皆様をはじめ、理工系大学や自治体の方々が自由に集まり、親睦を深める東京産学交流会にぜひ、ご入会ください。産業人なら誰でも加入できます。お申し込みは下記の事務局へお願いします。

年会費 76,000円



東京産学交流会 事務局

〒144-0052 東京都大田区蒲田5-46-1 秋元ビル4階

日刊工業新聞社 南東京支局内

TEL 03(3732)5451 FAX 03(3732)5453



理事会・総会(2010年11月)

航空機産業の最新動向を探る定例会(2010年8月)

羽田空港国際化シンポジウムには100人が参加(2010年9月)

障害者雇用をテーマにした定例会(2010年10月)